中学２年　国語科　教材別テスト③　枕草子　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語／「枕草子」（清少納言）・光村図書『国語２』

【このテストの使い方】

教科書の現代語訳・脚注・解説は載せていません。**教科書『国語２』の「枕草子」のページを開いたまま**解答します。問題用紙には著作権の保護期間が終わった**古文の原文のみ**を掲げてあります。『枕草子』は**平安時代**の**随筆**で、作者の鋭い観察眼と「をかし」「あはれ」といった美意識を味わう教材です。古語と現代語の**意味のずれ**に気づけるかどうかが、得点の分かれ目になります。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	歴史的仮名遣いと古語の意味	２点×９＝18点
	三	古典の基礎知識（成立時代・ジャンル・作者・三大随筆など）	２点×６＝12点
思考・判断・表現 50点	四	「枕草子」の読解	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

① **歴史的仮名遣い**を現代仮名遣いに直す規則（ハ行転呼・ワ行・母音の連続）を身につけているか。

② 「をかし」「あはれ」「うつくし」「つとめて」など、**古語と現代語の意味のずれ**を理解しているか。

③ 「春はあけぼの」の章段で、**四季と時間帯の組み合わせ**とその理由を説明できるか。

④ **対句的な繰り返し・体言止め・短い文**という表現の特徴と、その歯切れのよい効果に気づけるか。

⑤ **随筆**というジャンルの性質と、情景描写に表れた作者の**観察眼**を捉えられるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	きゅうちゅう	⑪	習慣
②	こてん	⑫	感性
③	おもむき	⑬	観察
④	ふぜい	⑭	染める
⑤	あざ（やかな）	⑮	睡眠
⑥	ただよ（う）	⑯	故郷
⑦	せんさい	⑰	環境
⑧	しも	⑱	尊敬
⑨	すみ	⑲	季節
⑩	かたむ（く）	⑳	険しい

小計　20点

【注意したい字】

①「宮中」は「きゅうちゅう」。「ぐうちゅう」としないこと。③「趣」は「おもむき」。「しゅ」と音読みで答えたものは不正解。④「風情」は「ふうじょう」ではなく**ふぜい**。⑤⑥⑩⑭⑳は**送りがな**まで必要（「鮮やかな」「漂う」「傾く」「染める」「険しい」）。⑦「繊細」の「繊」は糸へん。⑫「感性」を「感想」と書く誤りが多い。⑭「染める」は「初める」と書き分ける。⑮「睡眠」はどちらも目へん。⑯「故郷」を「古郷」と書く誤りが多い。⑰「環境」の「環」はたまへん（王）。⑱「尊敬」の「尊」の下部は「寸」。⑳「険しい」は「けわしい」、送りがなまで必要。「検」「験」と書き分けること。

二　歴史的仮名遣いと古語の意味　（2点×9＝18点）

番号	解答	解説
(1)	**ようよう**	「やう」のように**母音＋う**が続く形は「よう」と読む（au→ô）。「だんだん・しだいに」の意。
(2)	**あわれ**	語の**最初以外**のハ行（は・ひ・ふ・へ・ほ）は、ワ行（わ・い・う・え・お）に直す。「はな（花）」→「わな」とはしないので、**語頭はそのまま**という点も確認。
(3)	**おかし**	「を」は「お」に直す。「ゐ・ゑ・を」→「い・え・お」。
(4)	**いう**	語中の「ふ」→「う」。「いふ」＝言う。
(5)	**なお**	語中の「ほ」→「お」。「なほ」＝やはり・いっそう。
(6)	**いる**	「ゐ」→「い」。「ゐる（居る）」＝座っている・いる。同じ仲間の「ゑ」も「え」に直す（「こゑ→こえ」）。
(7)	**イ**	「をかし」＝**趣がある・心がひかれる・興味深い**。現代語の「おかしい（こっけいだ・変だ）」ではない。エを選ぶ誤りが最も多い。
(8)	**ウ**	「あはれなり」＝**しみじみと心に深く感じられる（心の底から深く感じ入る）**。感動の中心を表す語。現代語の「あわれ（かわいそう）」の意味に引かれてカを選ばないこと。
(9)	**ア**	「つとめて」＝**早朝・明け方**。現代語の「努めて（努力して）」と混同してオを選ぶ誤りが多い。「冬はつとめて」は「冬は早朝がよい」の意。

小計　18点

三　古典の基礎知識　（２点×６＝12点）

番号	解答	解説
(1)	**イ（平安時代）**	十一世紀初めごろの成立。**平安時代**の中ごろ、一条天皇の中宮定子に仕えていた時期の体験がもとになっている。
(2)	**随筆**	物語・日記・和歌集ではなく**随筆**。「随想」「エッセイ」は漢字二字の指定に合わないため不正解とする。
(3)	**清少納言**	「清小納言」「清少納音」などの誤字に注意。「**少**」であることを確認させる。
(4)	**イ・エ**	「日本三大〇〇」＝日本三大随筆のこと。**枕草子（平安）・方丈記（鎌倉／鴨長明）・徒然草（鎌倉末〜南北朝／兼好法師）**。ア平家物語は軍記物語、ウ古今和歌集は和歌集、オ竹取物語は作り物語。**二つそろって２点（完答）**。
(5)	**紫式部**	同じ平安中期の女性作家。**『枕草子』＝随筆／『源氏物語』＝物語**というジャンルの違いと、「をかし」（枕草子）と「もののあはれ」（源氏物語）という美意識の違いをあわせて押さえる。
(6)	**ウ（もののあはれ）**	『源氏物語』を貫くのは、しみじみとした深い情感を味わう「**もののあはれ**」の美意識。イ「をかし」は『枕草子』の美意識、ア「わび」・エ「幽玄」は中世以降の美意識。

小計　12点　／　知識・技能　合計　50点（20＋18＋12）

【歴史的仮名遣いの三原則】

① **語中・語尾のハ行**（は・ひ・ふ・へ・ほ）→ ワ行（わ・い・う・え・お）。例「あはれ→あわれ」「いふ→いう」「なほ→なお」。

② 「**ゐ・ゑ・を**」→「い・え・お」。例「ゐる→いる」「をかし→おかし」。

③ **母音の連続**「au・iu・eu」→「ô・yû・yô」。例「やうやう→ようよう」「てふ→ちょう」。

※　**語頭のハ行は直さない**（「はな」は「わな」にならない）。ここを取りちがえる誤りが最も多い。

四　「枕草子」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	**春…あけぼの** **夏…夜** **秋…夕暮れ** **冬…つとめて**	四つそろって４点（完答）。「**つとめて**」＝**早朝**をひらがなのまま書き抜けていればよい。「冬…早朝」のように**現代語に直したもの**は、書き抜きの指示に反するため－１点。「春…春はあけぼの」のように文ごと写したものは可とする。
(2) 3 点	**イ**	「あけぼの」＝夜がほのかに明けはじめるころ。「あかつき」よりやや後、空が白みはじめる時刻。
(3) 3 点	**イ**	「やうやう」＝しだいに、「白くなりゆく」＝空が明るくなっていく。**雪ではない**。アを選ぶ誤りが多い。
(4) 4 点	**イ**	月の夜はもちろんよいが、闇の夜でも蛍がたくさん飛びかう、一つ二つがほのかに光って飛ぶ――と、**暗さの中の小さな光**に目を向けている。ア・ウのような「暑い／すずしい」という体感の話ではない。
(5) 5 点	**（例）夕日の中を飛び急ぐ鳥の姿に、しみじみとした情趣を感じるということ。(33字)**	「**夕日・山の端／鳥や雁が飛び急ぐ姿**」という具体（３点）＋「**しみじみとした情趣・深い感動（あはれ）を感じる**」（２点）で採点。 「秋だから」「きれいだから」だけの解答は０点。原文をそのまま書き写しただけのものも０点。二十五～三十五字から外れたら－１点。「～ということ。」で結んでいないものは－１点。
(6) 4 点	**エ**	原文の最後で、昼になって火桶の火が**白い灰ばかりになったさま**を「**わろし**」（よくない）と述べている。ア・イ・ウは「言ふべきにもあらず（言うまでもなくよい)」「つきづきし（似つかわしい)」と肯定的に書かれている。「**わろし**」＝**悪い**を押さえていれば解ける。
(7) 4 点	**イ**	「春は～」「夏は～」「秋は～」「冬は～」という**対句的な繰り返し**と、「あけぼの」「夜」のように名詞で言い切る**体言止め**。短い文が連続することで、**歯切れのよいリズム**と断定的な小気味よさが生まれる。アの「長い一文」は本文の特徴と正反対。
(8) 5 点	**（例）列をつくって飛ぶ雁が、遠くに小さく見える様子を好ましく思うということ。(35字)**	「**列を連ねて飛ぶ雁が、遠くに小さく見える様子**」という具体（３点）＋「**好ましく思う・心をひかれる・趣深く感じている**」（２点）の二点で採点。 「鳥がきれいだから」のように**具体に触れていない**ものは１点。

		「まいて」＝まして・いっそう、「をかし」＝趣があるという語の意味を押さえていれば書ける。二十五〜三十五字から外れたら－１点。「〜ということ。」で結んでいないものは－１点。
(9) 4 点	**イ**	古語の「うつくし」は、現代語の「美しい」ではなく「**かわいらしい・いとおしい**」の意。そのため、この章段には小さなもの・幼いものが並べられる。**古語と現代語の意味のずれ**を問う設問。
(10) 5 点	**（例）空にうっすらと紫がかった雲が、細く長く横に引いている様子。（29字）**	「**紫がかった雲**」（３点）＋「**細く長く横に引く（たなびく）**」（２点）で採点。「紫だちたる」＝紫色を帯びた、「たなびく」＝雲やかすみが横に長く引く。 「山ぎわが明るくなる」など(3)の内容だけを書いたものは１点。二十五〜三十五字から外れたら－１点。「〜様子。」で結んでいないものは－１点。

四　「枕草子」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(11) 4 点	**イ**	随筆＝**見聞したことや感じたことを、形式にとらわれず自由に書き連ねた文章**。ア…記録・日記、ウ…物語、エ…短歌の説明。
(12) 5 点	**【ルーブリック採点】** **（例）秋の夕暮れを美しいと感じる点は自分と同じだが、冬の早朝を趣深いと思う感覚は自分にはない。（44字）**	**５点（満点）の条件**…①**重なる点**と②**異なる点**の両方が書かれている／③どちらにも本文の**具体例**（春のあけぼの・螢・夕日と鳥・霜や炭など）が示されている／④四十〜五十字の範囲内。 **３〜４点**…①②の両方はあるが、具体例があいまい、または一方だけ具体的。 **１〜２点**…重なる点か異なる点の**片方だけ**しか書けていない。 **０点**…感想のみ（「おもしろかった」等）、本文と無関係、無解答。 **－１点**…四十〜五十字から外れている場合。 ※　内容の正誤は問わない。**自分の感覚を、本文の記述と結びつけて述べられているか**だけを見る。

思考・判断・表現　合計　50点（4＋3＋3＋4＋5＋4＋4＋5＋4＋5＋4＋5）　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ）】

1. 「**をかし**」＝**趣がある**。現代語の「おかしい（こっけいだ・変だ）」ではない。最頻出の引っかけ。
2. 「**あはれなり**」＝**しみじみと深く感じられる**。「かわいそうだ」と訳さない。
3. 「**つとめて**」＝**早朝**。「努めて（努力して）」ではない。「冬はつとめて」は「冬は早朝がよい」。
4. 「**うつくし**」＝**かわいらしい**。「美しい」ではないため、「うつくしきもの」には**小さく幼いもの**が並ぶ。
5. 歴史的仮名遣いは**語頭のハ行は直さない**。「あはれ→あわれ」は直すが、「はな」はそのまま。
6. 四季と時間帯の対応（**春＝あけぼの／夏＝夜／秋＝夕暮れ／冬＝つとめて**）は暗記事項。秋と冬を入れちがえる誤りが多い。
7. 表現の特徴は**対句的な繰り返し＋体言止め＋短文**。「長く続く文」「比喩の多用」と答えると誤り。

8. ジャンルは**随筆**。『源氏物語』（紫式部・物語）との混同、三大随筆（**枕草子・方丈記・徒然草**）の取りちがえに注意。